



校務改善推進 発表会

世田谷区立松沢小学校

校長 宇都宮 聡

1 学校の実態

- ▶ 杉並区と隣接する世田谷区の最北部、京王線下高井戸駅から徒歩3分近隣には日本大学文理学部、日大櫻丘高校、都立松原高校がある。
- ▶ 下高井戸商店街の強力なバックアップがある。
- ▶ 創立135年の伝統ある学校である。
- ▶ 平成22年度から地域運営学校として学校運営委員会を設置している。

2 学校の状況

児童数 891名
きはだ学級（肢体不自由）、くすのき学級（知的障害）
すまいるルーム（特別支援教室拠点）
学級数 全33学級
教職員数 71名（講師を含む。SSS1名配置）

令和4年1月現在



イメージキャラクター
「うさ松」

3 校務改善の4つのポイント

(1) 学校改善と人材育成・多忙感の軽減を考慮した学校評価

戦略的な学校経営計画

- 1 学校経営目標
- 2 学校経営の重点目標を達成するための基本的な考え方
 - (1) 学校の教育目標
 - (2) 学校経営方針
- 3 学校経営の重点目標を達成するための4つの柱
 - (1) 教育の質の転換
 - (2) 誰一人置き去りにしない教育の推進
 - (3) 子どもたちの学びを支える環境の整備
 - (4) 今日的な課題への対応
- 4 学校経営の重点目標を達成するための下位目標
55項目



教育課程の編成



教職員の自己申告書

学校経営計画の具体的な方策の項目から教員が達成目標として選択し、取り組み内容を申告する。

学校運営組織の編成

校長が、人材育成とOUTの視点から校務分掌を編成し、指名する。

3 校務改善の4つのポイント

(1) 学校改善と人材育成・多忙感の縮減を考慮した学校評価

自己評価

学校経営計画の具体的な項目を評価項目として教職員が評価する。→自己申告書との連携



第三者評価

学校運営に関する外部の専門家を中心とした第三者評価委員会により、自己評価や学校関係者評価等の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について、専門的視点から評価を行う。



学校関係者評価委員会が分析した報告書を根拠に、次年度の学校経営計画を策定する。

教育活動・校務分掌ごとの評価

それぞれの学校行事、校務分掌ごとの評価を行い、次年度計画に生かす。

学校関係者評価

保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者などの学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行う。

児童生徒・保護者アンケート

自己評価を行う上で、児童生徒や保護者を対象とするアンケートにより、どのような意見や要望を持っているかを把握する。

効果

教育活動を学校経営計画の下位目標という定点（自己申告書とリンク）で評価することにより、多忙感が軽減できる。

3 校務改善の4つのポイント

(2) 教材研究日、成績処理日の設定

▶ 設定までの手順

- ① 12月末までに学校評価を終える。
- ② 1月当初までに年間行事計画案とを作成し、次年度の学校経営計画を教職員に提示する。
- ③ 教育課程届出相談日までに各学年の意見を集約し、教材研究日を設定する。

▶ 効果

- ① 教職員が1年間の見通しをもって、勤務時間内に職務を終えるように計画をたてることができる。
- ② 教職員が共通理解した上で教材研究日、成績処理日を設定することができる。
- ③ 計画的に職務遂行することができ、多忙感を軽減できる。



シンボルツリー
「くすのき」

3 校務改善の4つのポイント

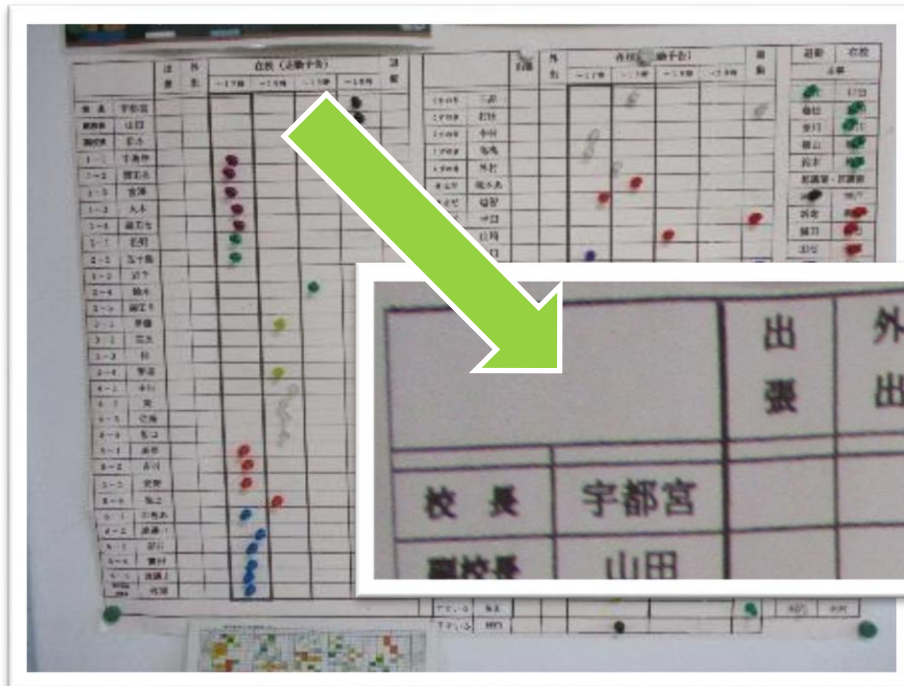
(3) タイムマネジメント力の向上

▶ 具体的な方法

- ① ICカードによる勤務時間の管理
- ② 出勤時に、具体的に何時に退勤するかを自主的に示す在籍掲示板の設置

▶ 効果

- ① 校務分掌の遂行状況やタイムマネジメント力が向上した。
- ② 平均的に勤務時間の縮減ができた。



		出張	外出	在校 (退勤予告)				退勤
				~17時	~18時	~19時	~20時	
校長	宇都宮					●		
副校長	山田					●		

3 校務改善の4つのポイント

(4) スクールサポートスタッフ、学校運営委員会（学校地域支援本部、地域運営学校）、PTAボランティア、アウトソーシングの連携と活用

- スクールサポートスタッフによる学級事務の削減
印刷や教材作成等の学級事務が概ね2割削減された。



内容を詳細に記載した依頼票入れ

3 校務改善の4つのポイント

(4) スクールサポートスタッフ、学校運営委員会（学校地域支援本部、地域運営学校）、学校支援コーディネーター、PTAボランティア、学識経験者の連携

▶ 学校支援の連携の場としての学校運営委員会

学校支援コーディネーターやPTA代表、下高井戸商店街代表、地域代表、学校からは管理職と教務主任が出席し、学校支援についての連絡・調整を図っている。

例1 ミシンの実習など、実技教科への支援（PTAボランティア）

例2 朝学習での「読み聞かせ」（地域サークル）

例3 スポーツクラブ指導員による体育授業（民間企業）

例4 土曜日に実施する算数補習「算数まんてん塾」の開催（日本大学サークル）

例5 PTAのHPで各種ボランティアを募集するサイトの活用

※その他、指導計画上、民間企業の出張授業等、教員の要望に応じて、学校支援コーディネーターが情報収集し、依頼することもある。

地域や保護者、教職員の合言葉



すべては松沢小学校の
子供たちのために！